



東大寺 212 世別當 筒井寛秀 筆

No.32

2013. 1. 15

【発行】

奈良県肢体不自由児・者父母の会連合会

<http://www.narakenshiren.gr.jp>

【発行責任者】 松本倫子

【編集責任者】 菰口悦子

【メールアドレス】

[honbu@narakenshiren.gr.jp](mailto:honbu@narakenshiren.gr.jp)

新年のご挨拶

会長 松本倫子



あけましておめでとございます。旧年中は皆様にご支援をいただき、様々な活動に取り組むことが出来ました。心からお礼申し上げます。

年末に自民・公明党政権が誕生しました。安倍政権の下、十三兆三千億円の緊急経済対策が打ち出されました。障害者施策はどうなるのか注視してまいります。全肢連の清水誠一会長が北海道の比例区から自民党の衆議院議員に当選されました。父母の会として大変うれしいことです。清水会長は障害児者がどこにいても同じように福祉サービスを受けられるよう地域間格差を解消しないといけないと、常々熱っぽく語られております。地域の実情を国政に伝える太いルートが出来ました。ご活躍を期待します。

暮れから年明けにかけて、大変寒い日が続きます。インフルエンザも流行ってきているようです。体調を崩されている方々もおられますが、どうか自分の持てる体力、気力で乗り切ってくださいるようにとお祈りします。障害のある子ども達は、命の危険にさらされても、命の火をともし続けようとする力を出し切って頑

張ります。その姿に親は勇気づけられ共に頑張つて暮らしています。子どもは体の弱い部分が絶えず気になつていきます。この子達を支えてくださっている医療、福祉、教育での関係者の皆様にお礼申し上げます。そして同時に、現実を見つめると、障害の重い人達の医療に慣れていく、くださるお医者様を一人でも増やしていくことに努めなければと思うのです。

幸い、奈良県重症心身障害児(者)医療ネットワーク会議で、病院、施設、在宅のそれぞれの課題を解決するための話し合いが一昨年から続いています。星田奈良医療センター院長を議長に、嶋、高橋、両県立医大教授・障害児者に関わる病院・医師会・保健所・看護師協会・訪問看護事業所・生活介護事業所・養護学校・当事者団体の代表者が集まり、県福祉部障害福祉課が事務局として、進められています。今年は、さらに前進してほしいと願います。昨秋から、明日香養護学校が、卒業後通う介護事業所の指導員や看護師の方に、重い障害児者への理解を深めていただくための講座と実習を受け持つてくださっています。地域で

の医療・福祉・教育のネットワークが一層強固になるように、当事者としても努力したいと思っております。今回、明日香養護学校から、相談支援の大切さを寄稿いただいています。参考にしてください。

県肢連では三部会（自立支援、重度対策、本人）と理事会で、課題を出し合い、どうすれば親子が、少しでも豊かに暮らせるか話し合っています。理事会では会員全体が集まる楽しい企画も立てていますが、重度対策部会と本人部会では、今まで学んだことを参考にして、「外に出ていっばい楽しみましょうー困難なことは解決しながらー」という企画を実施しました。また今後の住まいのあり方にも深い関心が集まりました。親がいなくなつて一人暮らしをされている方のお話を聞き、親にも子にも沢山の課題が見えてきました。全肢連のセミナーでは講師の松坂氏から、地域での生活を営む人の数だけ住まいのあり方も様々で、求められることも多様だということをお教わりました。長岡京市のケアホームを見学して、実態を学びました。いずれも、この「道」で報告しておりますのでご一読ください。

今年も変わらぬご指導を賜りますようお願い申し上げます、新年のご挨拶といたします。

父母の会に寄せて

生駒市福祉支援課

課長 辻 靖司

新年あけましておめでとうござ  
います。

奈良県肢体不自由児・者父母の  
会連合会会員の皆様の、日頃から  
の積極的な取り組みに對しまして  
心から敬意を表します。

さて、皆様もご承知のとおり障  
がい者を取り巻く環境は制度改正  
をはじめ、目まぐるしく変遷して  
おります。

昨年四月から、児童福祉法を基  
本として、身近な地域における支  
援体制の充実や、放課後等デイサ  
ービスの創設など障がい児支援の  
強化が図られています。また、昨  
年十月からは障がい者の権利利益  
を守ることを目的として「障害者  
虐待防止法」（障害者虐待の防止、  
障害者の養護者に対する支援等に  
関する法律）が施行され、本年四  
月からは「障害者自立支援法」に  
代わり、障がい者の日常生活や社  
会生活を総合的に支援するための  
法律として、「障害者総合支援法」  
が施行される運びとなっております。

す。

生駒市におきましても制度改正  
により、昨年四月から重症心身障  
害児・者に対する療養介護の支給  
決定事務のほか、権限委譲により  
四月から自立支援医療関係の事務  
を市が担うこととなっております。  
社会保障経費が年々増大する中、  
限られた財源で障がいを持つ方が  
安心して暮らせるよう、適切な障  
がい福祉サービス等の提供に努め  
ているところです。

また、障がいを持つ方の自立に  
重要な要素の一つとなる就労につ  
きましては、一昨年、昨年と連続  
して「障がい者の働きたいを形に  
する」をテーマに啓発イベントを  
開催するとともに、職業生活の基  
本的知識等の習得及び市職員や市  
民の障がい者理解の促進を図るこ  
とを目的として、昨年十二月から  
生駒市役所において、障がい者の  
職場体験の受け入れを行っていま  
す。

さらに、「切れ目のない支援」を  
テーマに、乳幼児期から学校卒業  
後までの一貫した支援の充実を図  
るサポートブックの導入等の検討  
を重ねるとともに、福祉と教育の  
連携に向け、関係機関や支援者間  
のネットワークの強化に取り組ん  
でおります。

また、災害時要援護者避難支援

プランに基づく個別支援計画作成  
についても、自治会等の協力を得  
ながら順次取り組みを進めており  
ます。

国・県の動向を見極めつつ、生  
駒市ハートフルプランの障がい者  
福祉計画に基づき、障がい者が生  
涯を通じて地域の中で安心して暮  
らしていける地域となるよう施策  
を展開しておりますが、施策の推  
進には障がい者ご本人やご家族、  
関係機関等の連携と協力、自助・  
共助なしには実現が図れないと思  
っております。

今後ともより一層のご支援とご  
協力を賜りますようお願い申し上  
げますとともに、奈良県肢体不自  
由児・者父母の会連合会のますま  
すのご発展を祈念申し上げます。

進路指導と計画相談

奈良県立明日香養護学校

植平 裕正

平素は、本校の進路指導にご理解  
ご支援を賜り、誠にありがとうございます。

さて、平成二十四年四月からの

障害者自立支援法の一部改正によ  
り、相談支援体制の充実が図られ  
ることになり、サービス等利用計  
画書の作成対象者が大幅に拡大さ  
れました。現在は市町村により作  
成についての取組状況の差があり  
ますが、三年以内に福祉サービス  
を利用する全障害者にサービス等  
利用計画を作成する計画になって  
います。これが実施されることで  
本校の進路指導でも、相談支援機  
関との連携のあり方を見直し、強  
化していく必要があると考えてい  
ます。

『進路指導』という言葉から思  
い浮かぶことは、学校卒業後、ど  
の事業所を利用するのかというこ  
とかもしれません。けれども、学  
校で取り組む『進路指導』は、児  
童生徒が社会参加をしていくため  
に必要な力を身につけていくため  
の指導で、卒業後にどこに行くか  
を考えるだけではなく、児童生徒  
一人一人が、豊かな生活を営むこ  
とができる生活設計への援助を目  
指しています。

つまり、毎日の生活の中で、「こ  
んなことができたなら」「こんなも  
のがあればな」など漠然と思っ  
ている事柄を整理して、家族の生活  
のイメージを作っていくことです。  
これは卒業を控えた高等部に限ら  
ず、学校に在籍する児童生徒全員

に、それぞれのクラス担任が日常のやりとりや懇談等を通じて行っていることで、この活動こそが学校の進路指導そのものだといえます。進路の担当はこれを受け、各担任に情報を提供したり、関係機関と連携し、その実現に向けて取り組んでいます。

学校の進路指導にとつての大きな課題は、卒業後、地域で継続的に相談支援に当たってくれる人との繋がりを作っていくことです。

この有無は、その後の生活設計に大きな影響を与える可能性があると思います。卒業時に「これで良い」と思っても、年々、当事者や家族の生活、これを取り巻く福祉サービスなどの環境は変化していきます。これら全てに保護者だけで対応し、選択していくことは難しいことだと思います。その時、少し相談したり助言をもらったり、様々な連絡調整をしてもらえれば心強いことです。相談支援体制の充実、まさにこのような場所を作り出してくれることとなります。

現状では、計画相談に取り組んでくれる事業所の数は絶対的に不足しています。現在、重症心身障害児(者)支援ネットワーク会議が取り組みを進めている人材育成がより充実・発展できるように、学校も

協力し関係各機関との連携を深めていきたいと思えます。  
これからも、より一層のご支援ご協力をいただき、様々な情報をご提供いただきますようお願い申し上げます。

近畿肢体不自由児者



福祉大会に参加して

斑鳩町 池田 加代子

七月十四日第四十七回近畿肢体不自由児者福祉大会に参加させていただきました。

オープンングは、海外公演にも、数多く活躍されている黒潮躍虎太鼓の皆さんの勇壮な演奏で始まりました。私の住んでいる斑鳩にも「和太鼓いかるが」というグループがあるので興味深く拝見しました。

次に、開会の挨拶や来賓の皆様との挨拶がありました。和歌山県副知事さんの挨拶の中で嬉しいお話がありました。「忍者と一緒に和歌山城へ」という和歌山城おもてなし向上事業で、電動車いすの方を天守閣前広場まで登城サポートして下さることと、もうひとつ、語

り部さんが車いすの方と一緒に和歌山公園を散策して下さる由、素敵な企画ですね。電動車いすでは、なかなかお城のように段差の多い所には行けないので、ここなら行けると思わず思いました。それから、全肢連の会長さんのお話も、大変心に残りました。それぞれの地域で安心して暮らせる町づくりをしなければならぬと、力強いお言葉でした。

休憩をはさんで柳岡克子さんという方の講演が、又、素晴らしいお話でした。仮死状態で生まれて障害のある方です。幼稚園から現在に至るまでのいろんな経験をお話しされたのですが、その折々の前向きな思考、ものすごい努力、そして困った事を解決するアイデア、たとえば、全国大会で優勝されるほど、卓球がお上手なのですが、ボールが床に落ちた時、体を少ししか屈めることが出来ないの

でボールを拾えない。それを拾うため考えだしたのがポテトチップスの筒。筒を二個つないで中を通して、片方の底に輪ゴムを二本くっつけておく。ボールの上をポンと突くとボールが筒の中に入って、もう一方の口から取り出せるというものです。その他にも、いろいろアイデア商品を見せていただきました。何事に対しても、どんな

時にも前向きに考え取り組んでこられたから、現在の素晴らしい柳岡さんがあるのだと思えました。本当に素晴らしい講演をありがとうございました。

奈良市 佐野 のぶ子

朝五時起きし朝食もそこそこに、近鉄西大寺駅でお友達親子三組と合流して集合場所の畝傍御陵前の奈良県社会福祉総合センターへ、そこよりバスに乗り、大会のある和歌山へ皆さんと一緒に出発しました。

和歌山市民会館の会場は和歌山城の近くで、お城も久しぶりにバスから見られて良かったです。受けし、おいしいお弁当とコーラさんからのジュース等をいただき、アトラクションの勇ましい「黒潮躍虎太鼓」を聞き、大会が始まりました。「障害者が安心して自分らしく暮らすためには」にそつた御坊市身体障害者福祉協会会長の柳岡克子さんの講演は、生まれた時より現在までのご自身の体験談でした。現在四十八才。神戸学院大学薬学部で薬剤師の資格をとる。その時の寮生活や車の運転免許(腕だけで運転)をとる。塾の先生をしたり今はドラッグストアに薬剤師で就職している。

パラリンピック世界大会（シドニー）に参加、卓球で三位になる。ご自身は仮死状態で生まれ、手足に障害。腰が少ししか曲らない。指でジャンケンが出来ない。

誰もいない時にこけたら一人で起きられない。落した物が拾えない。パンツがはけない。等々。

そういう時は折りたたみの下のものがとれるもの、孫の手等補助具の活用、残された機能の活用、環境の調整。柳岡さんも幼稚園、小中、高等学校とその時その時まわりの友達、先生がていねいにひきついてくれた。障害には視、聴、知、身体といろいろある。障害の程度によって助けがちがう。声かけをしてから力をかす。

・無償の愛

・感謝の気持ちで生きていく。不自由な時には感謝の気持ちを持つ。病気になるれば健康のありがたさが判る。

・病気を喜びに変える（人工肛門になつたので大腸ガンにはならない）

・天に貯金する（徳を積む）

ご本人の実際に生きての今までの言葉でしたのでとても重く心に残りました。

とりまく環境の調整、すなわち、生き生きと生活できる社会を皆で実現していくのが、この大会の意

義ではないのか！と私も思いました。参加出来た事に感謝しています。

奈良市 上田 玲子

去る七月十四日、和歌山県で開

催された近畿福祉大会に参加いたしました。プログラムの中で柳岡氏による記念講演が最も印象に残っています。「生きていく喜び」と題したご講演を聴かせてくださいました。ご講演の中で、幼少期から健常児と楽しく関わりを持ってこられた様子を絵カードで示しながら語ってくださったり、学生時代には勉強や部活動に一生懸命打ち込んでこられたこと、また、将来は人の役に立ちたいと薬学部の大学に進学され卒業後は薬剤師として就労されていたことなど、これまで歩んでこられた生涯を分かりやすくユーモアたっぷりに語ってくださりとても感動しました。

語りだけではなく薬剤師としての活躍ぶりや、障害者スポーツに打ち込まれている様子を映像で紹介してくださいました。全ての映像から柳岡氏の勝ち気なお人柄が伺え、前向きに生きていくパワーを沢山もらいました。また、講演の結びに語られた「いつも笑顔で周囲の人達に感謝をする気持ちを忘

れないでください。」という一言も心に響きました。

私と柳岡氏とは数年前からの知り合いで、講演活動を盛んにされていることを伺っておりました。

以前から、一度講演を聴いてみたいなど思っておりましてのでプログラムを拝見した時は驚きました。遠方だけれど何とかして会場へ駆けつけたいと思い介護者を確保して参加させていただきました。このような形で柳岡氏の講演を聴く機会が得られましたことをとても光栄に思っております。

第四十五回 全国大会の報告

宮城県仙台市

九月八日～九日



本部役員 前田 妙子

記念公演

「大笑いゼーションで

ノーマライゼーション」

桂福点さんは一九六八年兵庫県生まれ。先天性緑内障のため中学生の頃から視力を失い、いじめ、偏見でつらい思いをされましたが、友人や盲学校の先生との出会いや支えで自分の障害を受け入れ、前向きに生きられています。大学で

学んだ音楽療法や、独自の音楽漫談などで幅広く活躍されています。落語家の社会では「桂」という名前を長年もらえなかったことなど、まだまだ偏見があること等、障害のある方の生の気持ちを、ユニークでバイタリテイのある話で伝えて下さいました。

パネルディスカッション

「これからどうなる？ 障害者福祉」

コーデイネーターに、三浦東北福祉大学教授がつき、パネリストには、初鹿衆議院議員、衛藤参議院議員、障害者支援施設「不忘園」の佐藤施設長、石橋全肢連理事により障害者総合支援法などについて討議されました。

障害程度区分を医学モデルから、社会モデルへと変え支給決定を機械的ではなく相談し総合的に決めること。新法を政策決定するときには、審議に入る前に当事者団体の参加が必要なこと。相談事業のレベルアップの必要性。地域間格差をなくし、住み慣れた地域で暮らしやすさのために、親が地域にしっかりと声をあげていくこと。福祉に関する人材を育て増す必要性。医療的ケアの利用者の受け皿が少ないこと等重心への対応の課題。等、

奈良県肢連でも課題に感じていることが討議されていきました。何においても、まずは、人。早急に、福祉、相談、医療の人材育成において具体的な国や、県の動きを求めずにはいられません。  
また、我々親がしっかりと勉強し、アンテナをはり、声を上げていく必要性を再認識させられました。

自立支援部部长 宮井 陽子

大会二日目は「災害を乗り越えて幸せに暮らすには」己の持つ絆を再確認しよう」をテーマに一般公開フォーラムとしたパネルディスカッションが行われました。コーディネーターに宮城県肢連不自由児協会副会長 北島宏一氏がつかれ、パネリストにきょうされん宮城支部全国理事 株木孝尚氏、CILたすけつと副代表 杉山裕信氏、秋田市肢連不自由児者父母の会事務局長 渡邊啓宇氏、青森県肢連不自由児・者父母の会連合会会員 三浦令氏、岩手県立盛岡となん支援学校副校長 菅原敬子氏、福島県手をつなぐ親の会連合会副会長 佐藤保子氏により、討論が行われました。

一昨年三月十一日の東日本大震災において、宮城県内の障害者手

帳保持者の中でも、身体障害者の死亡率が高く（一般死亡者の四倍の死亡率）、実態把握に関しては事業所に関係している人はわかるが、それ以外の人は行政に聞いても個人情報保護で開示してもらえない。避難所に長くいられず自宅に戻るが、それでは支援が届かない。仮設住宅については二千九十五戸、内障害者用七十一戸。障害者の十三%だけが障害者用に入居できたが、あとの人は一般仮設住宅に入居。一般仮設住宅はバリアフリーではなく、間口が狭く窓から出入りすることも。

宮城県立船岡支援学校同窓会でアンケートを実施、五百名に発送百六十二名から回答。結果からは、トイレやお風呂を我慢した。生活費の不足。半数の人が、どこからも安否確認はなかったと回答。仮設住宅に対するニーズは大きいが存在を知っている人が少なかった。秋田市は震災の被害はほとんど無かったが、電力、電話、ガス、ガソリンの供給などライフラインが一部停止したことによる影響があった。呼吸器を使っている人にとって停電は命に直結。筋ジストの方の玄関先に、呼吸器メーカーの人からのバッテリーが置かれていた。非常時にこそ人とのつながり大切さを痛感。父母の会どうし

のネットワークの拡大。  
福島県では町の三分の一が流失。災害弱者の存在を知ってもらうことは大切。原発の近くに住む人は風評被害に苦しんでいる。避難先でいじめに遭い、戻ってくる子もいる。

支援学校では震災時の学校の役割として、児童生徒の安心・安全確保。避難訓練の充実。備蓄の必要性。保護者との情報の共有。地域との連携強化。

このように震災による厳しい状況や課題について話されました。

一般質疑では、「一人になった時、どこへ行けば親身になって相談に乗ってもらえるのか」「福祉避難所があっても、当事者も親も遠慮しがちで行かない人がいる、危険にさらされていることを行政に伝えていかなければいけない」「行政だけに頼っているのは駄目、周りに障害者がいることを地域の人に知ってもらうことが大事。学校にいる時から地域の学校との交流活動も大切」と発言がありました。

今回、貴重な体験をお聞きし、行政への働きかけや日常的に社会や地域と繋がり関わっていくことが如何に大切かと改めて感じました。父母の会も絆を深めることが出来る会であり続けてほしいと切に思います。

親子県外交流事業

東映大森映画村



奈良市 木村 清美

六月二十四日の県外交流事業に参加させて頂きました。数日前からお天気が気になっていましたが、当日はお天気に恵まれ、バスに乗るのを楽しみにしていた息子も朝からワクワクしていました。

映画村に到着。すぐ目についてのは、入り口に入って左上の忍者でした。あまりにもリアルで本当の人が綱渡りしているのかと驚かされました。その後、集合写真を撮っていたら、個人行動へ。ゆっくりぶらぶら見学しました。昼食には忍者定食をおいしくいただきました。昔の町並やお侍さん？町娘さん？を見て息子はキョトンとしていました。その後もゆっくり散歩したり和スイーツを食べたりして過ごしました。記念に映画村オリジナルのプリクラも二人で撮りました。  
暑いぐらいの良い天気にも恵まれあつという間の楽しい一日でした。会長さんはじめ役員の皆様方がとうございました。又次回楽しい企画を宜しくお願い致します。

奈良市 飯田 弘子

六月二十四日に父母の会で東映大秦映画村に行ってきました。奈良、橿原に別れてバス二台で行きました。奈良は、総合福祉センターを九時半に出発しました。

映画村に着いてまず記念写真を撮りました。私は菰口さんと漸井さんと行動しました。スタンプリーで十個のスタンプを集めて、ゴールは新撰組です。始めは一日かかるかなーと思ったけど意外に早く終わりました。私一人だったらもっと時間がかかったと思うけど三人だったから早く終わりました。途中、中村座で南京たますだれを見ました。ちよっと見にくいでした。二時から服部半蔵の忍者ショーを見ました。スタンプリーのゴールでの新撰組では、何がもらえるのかなー？ハッピとか、はちまきがいいなーとドキドキワクワクしていたけど、シールとバッジでした。がっかり。

次はオモシロ学習館寺子屋に行きたかったけど時間が決まっていた入れませんでした。残念。寺子屋の次にアニメのアフレコをやりました。楽しかったです。

三時半に集合して、福祉センターに五時半に着きました。

## 部会の活動



### 重度対策部

本部役員 太田 泰子

重度対策部では、今年五月の新旧部会で今年度の計画を立てた時に、今まで学んだいろいろなことを活用して「障がいも重くてもいっばい外に出て皆で楽しみたいよー」という目標をかかげました。

まずその一つ目として、八月十五日に東大寺大仏殿でおこなわれた「万灯供養会」の見学に参加しました。毎年「万灯供養会」は多数の参拝の方で賑わいますので、車椅子の団体で参加することは難しいのですが、東大寺福祉療育病院の地域支援の一環として通常の時間の前に障害児・者やその家族を参拝させていただきます。今回は地域支援の先生にお願いして重度対策部も一緒に参加させていただきました。奈良に住んでいてもほとんどの人が初めての体験で、本当に素敵な時間を過ごすことができました。ご協力くださった東大寺福祉療育病院の関係者の方々に感謝申し上げます、ありがとうございます。

そして二つ目として、十月二十一日〜二十二日にホテル日航奈良において「クラシック音楽鑑賞と親睦食事会&宿泊体験」を行いました。この事業は、奈良県より「筋ジス療育キャンプ事業補助金」、全国肢体不自由児・者父母の会連合会より「さわやかレクリエーションキャンプ事業助成金」をいただき実施しました。音楽鑑賞と食事は三十名、宿泊体験は六組十二名の参加がありました。音楽ボランティアとして奈良教育大学からギターマンドリンクラブの方々が来てくださり、クラシックからポピュラーまで楽しい演奏をしてくださいました。食事に関しては、

きざみ食やペースト食などいろいろな要望があり、ホテル側と何度も打ち合わせを重ねましたが、こちらからお願いしたことはほとんど全て対応してもらえました。またホテル日航奈良には一室ですがハンデキャップルームがあります。浴室が三枚扉の引き戸になっていたり、脱衣所が広くとってあったりと車椅子に対応しています。

今回の経験を通じてわかったことは、障がいの重い子どもを連れての旅行は敬遠しがちになります。が、充分な下調べや要望をしっかりと伝えることで不安を軽くできるということ。それと合わせて

ホテルの方にも障がいのある人を理解してもらおう良い機会になったと思います。

東大寺万灯会に参加して

本部役員 横谷 京子

八月十五日、東大寺福祉療育病院の地域療育等支援事業で行われた東大寺万灯会に重対部から参加させて頂きました。万灯会準備のために一度閉門し、参拝は午後七時から始まりですが、車椅子の子供たちだけ時間前に入れていただきました。大仏殿の東西の回廊と中央の参道に何千もの数の灯ろうが並べられ、夕暮れ時のなか徐々に灯りがともされ幻想的な景色でした。大勢の参拝客で賑わう大仏殿もこの時は準備の関係者だけだったので、ゆっくりと中を見学することができました。開門十分前にはいつも閉じている大仏殿正面の観相窓が開けられ、中門の所から大仏様のお顔を拝むことができました。七時になり大勢の一般参拝客が入ると入れ違いに私たちは大仏殿を後にしました。せっかく奈良に住み色々な行事がありながら、車椅子で人混みの中に出ていくのを避けていましたが、今回

療育事業に参加することで万灯会を楽しむことができました。ありがとうございました。

音楽鑑賞と

親睦食事に参加して



大和高田市 木村 友彦

十月二十一日(日) ホテル日航奈良で食事があり、参加させてもらいました。

楽器の演奏をきいたりおいしい食事を食べながら、ゆったりとしたひとときをすごす事ができよかったです。

王寺町 岸上 明子

いつもお世話になってます、王寺支部の岸上です。子供は、中学三年の女子で明奈といいます。昨年十月の二十一日、二十二日で重対部会の一環として、奈良の日航ホテルでの宿泊体験に親子で参加させて頂きました。

明奈は、下に妹と弟が居るので、なかなか私と明奈が二人きりで旅行に行く事が無いので、とても貴重ないい経験をさせて頂きました。最初現地に着いて、行き慣れな

い場所でしたが、とてもリラックス出来るコンサートだったので、落ち着いてよく聞く事が出来ました。どの曲も素晴らしい演奏で、終盤はとても盛り上がって楽しかったです。演奏が終わってからは、食事を戴き、その子その子に合った形状で調理されていて、うちの子は大好きなメニューばかりだったので、とても美味しく戴きました。

普段、部会では、お母さんにかかえないので、お子さんも会えて良かったです。宿泊の部屋も娘と二人のツインで、広々と休む事が出来ました。お風呂も、ホテルなのでユニットですが、身障者用の部屋のお風呂を用意して下さったので、普通よりは広く、入れやすかったです。

次の日は、月曜で学校があったのですが、奈良で近かったので助かりました。

本当に貴重ないい経験をさせて頂いてありがとうございます。またこんな機会があれば、参加させて頂きたいと思えます



本人部会  
宿泊体験



本部役員 山口 裕美

九月十五・十六日(土・日)、本人部会として二度目の宿泊体験を実施。二十七名の参加で、兵庫県しあわせの村で一泊。二日目はブルメールHAT神戸を自由散策、続いて阪神・淡路大震災記念人と防災未来センターでの学習と、盛りだくさんの行程でした。有難いことに今回は、奈良県共同募金助成と全肢連療育キャンプ事業の補助を頂くことができました。リフト付きバスをチャーター。移動はとても快適に、往復共皆さんお得意のカラオケ三昧で楽しい車中となりました。参加された方からの感想を紹介させて頂きます。

橿原市 黒木 浩喜

秋を感じさせられる、九月十五日(土)から十六日(日)にかけてしあわせの村にての本人部会宿泊体験に参加しました。ボランティアさんとして、青丹学園の学生さん五人も参加して下さいました。

行く時交通じゆうたいになって、予定時間よりおくれたけど、無事にしあわせの村へつくことができました。ついたら昼ごはんをボランティアさんと話しながら食べました。そして、自己紹介をして、歩いて宿泊しせつまで行きました。宿泊しせつへついたら、おふろの見学をしました。おふろにはいるかなあと思ったけど、ボランティアさんに手伝わってもらって、はいることができました。本当に、ありがたい気持ちでいっぱいでした。そして、みんなでかこんで夕食を食べました。コップにビールをボランティアさんに入れてもらってかんぱいしました。夕食後カラオケをして、もりあがりました。

次の日は、ブルメールHATで買物の予定でしたが、自由行動だったので、ぼくはボランティアさんと三宮駅まで歩いて行きました。行く時は、一時間ほどかかりました。三宮駅近くのダイエーでオムライスを食べました。時間がバタバタしましたが移動中ボランティアさんとお話しができました。

その後、人と防災未来センターへ見学に行きました。今から、十七年前に起きた阪神あわじ大震災の出来事をスクリーンでかんしゅうをし、改めて地震のこわさを知

りました。そして、バスにのって奈良にかえってきました。

二日間なんの問題もなく無事に終わりよかったです。楽しい二日間でした。この計画をたてた本人部会の役員のみなさんありがとうございます。そして、青丹学園の専門学校のみなさんいろいろ手伝っていただいております。

檀原市 北内 利枝

九月十五日(土)・十六日(日)に、本人部会で「しあわせの村」と「人と防災未来センター」に行きました。

参加者の中に自分の知っているE夫妻がいました。E夫妻とバスの中でいろいろな話をしました。十二時過ぎ、しあわせの村へ着きました。しあわせの村に着いたあとみんなで記念写真を撮りました。昼食をしました。部屋はWさんといっしょでした。十六時過ぎ、Eさん、Kさん、自分とボランティアさん二人と五人でジャングル温泉に入りました。自分は左手が不自由なので、ボランティアさんに右手と背中を洗ってもらいました。泡風呂も入りました。十八時、特別会議室で夕食をしました。その

あとみんなでカラオケをしました。自分は、山口百恵さんの乙女座宮を歌いました。楽しかったです。

十六日、午前七時、朝食でバイキングしました。八時過ぎ、部屋を出て一階のみやげもの屋へ行きました。バスにのってブルメールHAT神戸に行きました。Wさん親子とMさん親子と自分と五人で行動しました。十一時過ぎ、ポエムの樹で昼食しました。十三時過ぎ、人と防災未来センターで記念写真を撮りました。淡路大震災と東北大震災の映像を十五分間見ました。淡路大震災の復旧の写真なども見ました。バスに乗りました。Yさんがカラオケしますかと聞きました。後ろの人がカラオケしますといったのでしました。自分は森昌子さんの越冬つばめを歌いました。楽しかったです。社会福祉総合センターに着いたのは、十七時四十五分でした。

またいつか本人部会から旅行へ行きたいと思います。



学校法人 青丹学院

伊藤 祐貴子

今回ボランティアとして参加させていただいて学んだことは、障害を持った方との関わり方です。最初はどうか関わった方がいいのかかわらず、コミュニケーションをとることができませんでした。しかしご飯を食べたり車椅子を押したりして、一緒に時間を過ごすことで、自分できてるのかわかり、コミュニケーションもとれるようになってきました。夜は一緒にカラオケをさせてもらったり、部屋でお話をさせてもらったりして楽しい時間を過ごすことができました。

私が車椅子を押して思ったことは、外では道がでこぼこで押しにくかったり、車椅子用のトイレがあっても入口が狭くて入れなかったりして、まだまだ車椅子の方にとっては過ごしにくいものだと感じました。

この二日間参加された方に「ありがとう」といっていただきボランティアとして参加してよかったと思えました。



地域指導者育成セミナー



滋賀県「休暇村 近江八幡」

十一月十七〜十八日

本部役員 漸井 みゆき

基調講演「障がい者の住まいのあり方について」

NPO法人わーかーびー理事長

松坂 優

昨年度全肢連で発行された※療育ハンドブック三十八集「表札と郵便受けのある住まい」共同居住における肢体不自由者の暮らし」に沿った内容でした。

障がい者の暮らしの形態は法制度に基づく住まいとしては入所施設、ケアホーム・グループホーム、福祉ホームがあります。法制度によらない住まい方として共同居住、単身賃貸、ルームシェアがあります。現在地域でケアホームや共同生活を立ち上げている事例を挙げ、ケアホーム、グループホームを自分たちで作る方法、個人や仲間での共同居住を運営するにはどのような問題があるのかなど、その違いを示されました。地域での生活を望む人の数だけ住まいのあり方も様々で、求められていることも多様です。暮らし方に合わせ



て国のサポートが必要で、制度の枠組みに乗らないほうがより個別度の高い支援や介護を受けながら自分らしい暮らしができるのではないかと。地域での暮らしには課題はたくさんあるが、一人ひとりが自分らしくオリジナルな暮らしを実現しようと結ばれました。

※療育ハンドブックは各地域の父母の会に一冊ずつ配布しています。

一日目の意見交換は「障がい者の住まいの在り方について」各府県より発表がありました。奈良県は、以前自立支援部会で聞かせていただいた両親が亡くなられた後、一人暮らしをされているケースを地域で自立生活を送る取り組みとして紹介させていただきました。その中で、親が健在であるうちに相続の整理、子どもの生活設計を立てておくことの必要性、良き支援者を得ること、相談し合える仲間づくり、子どもたちが安心して暮らしていける方法を確立するため、個人では難しい問題は会で訴えていくなどの課題をあげました。

本部役員 山口 裕美

二日目は「生活のしづらさなど、現状と課題」というテーマで各府

県肢連から意見発表しました。個人の意見としてですが、奈良県からは、第一に、通勤・通学・通所に移動支援が使えれば、親掛かりの毎日から子ども親も一歩自立へと進めること。第二に、歩道や店舗・建物等出入り口、公共交通機関等のバリアフリー化が進めば、この社会的障壁が無くなることだけで、自分の障がいを目の当たりに感じず幅広く行動でき、気持ちも人とのつながりも広げられるということ。第三に、軽度でない肢体不自由の人にも、公共機関からこそ職域を拡大し、門戸を広げてもらえれば、障がいのある人がもっと広く社会に出られ、当たり前前に自分をアピールできる社会になつていくのではないのでしょうか。そのための施策を講じていただきたい。以上三点について発表させて頂きました。

他府県からも他に、短期入所先の確保の難しさについて。成年後見制度の諸費用が高く、使いにくいこと。全介助の人のサービス利用時に制限が多いこと等の意見が出ましたが、移動支援については、地域格差があり、各自立支援協議会に於いて働きかけていく必要がある。医療的ケアが必要な人については、たん吸引も咽頭内になると行く場が限られてしまう。療養

介護を使うようにと言われるが、ベッドを増やし、診療報酬との差を補うため単価を上げる運動が必要である。相談支援については、介護保険と同じようにケアプラン作成が必要でケアマネージャーを育成していく事、認定区分審査員に父母の会の者が関わる事が大事である(抜粋)と、全肢連・滋賀県肢連会長がまとめられました。

日本重症心身障害者学会では、『命の尊厳』についてまとめていく必要がある。QOLについてまとめていかなければならないと考えておられるそうです。このことこそ、何を考える上に於いても立ち返らなければならない原点だと思われました。

斑鳩町 田口 美智子

松坂優氏は北海道で、NPOと社会福祉法人で多くの事業所を運営され、障がいの住まい方について、アンケート等で研究された住まい方の様々な形、支援の種類、そして実際に各地方にある住まい方の例を紹介されました。親が必要に迫られ立ち上げる場合、その後の管理等課題があることや入所ケアホーム以外にも個々に合わせた暮らし方があることを知りました。

その後、近畿各府県より障がいの住まいのあり方について、株式会社でのケアホーム作り、親なき後の一人暮らしや、交通の便の悪い農村部での生活についてなど、個人の意見発表がありました。

二日目は生活のしづらさ、現状と課題についての発表で成年後見制度、移動支援の使い方、進んだように見えるバリアフリー化も実際には不便であったり、また医療ケアのある方の短期入所の不足、日々感じる現状を切実に発表されました。

このような二日間の研修は初めての参加でしたが、他県の方とお話しができたり、情報を聞くことができ、琵琶湖のほとりでの有意義な二日間でした。

### 施設見学

「ケアホームいろいろ」



本部役員 横谷 京子

十一月三十日施設見学会があり二十四名の参加者で、京都府長岡京市にある社会福祉法人あらぐさ福祉会運営の「ケアホームいろいろ」を見学させていただきました。

向日が丘支援学校の近くに位置し、まわりを竹林に囲まれた静かな場所にあらぐさ福祉会の事業所（生活介護五十名、就労継続支援B型十名）がありました。そこから歩いてすぐの場所に「ケアホームいろどり」があります。約三百九十坪の土地に二階建ての建物が四棟並び合計定員は二十七名、それぞれ障害特性別に入居されています。それぞれの個性と一人一人のその人らしさを尊重した「いろどり」

居室には承諾を得た上でモニターカメラが置かれ、スタッフルームで映像を確認できるようになっていて夜間の安全確保を工夫されていました。

あるケアホームになるようにと命名され、各棟にも「たちばな」「もえぎ」「ききよう」「わかくさ」と名前がつけられていました。「たちばな」は自閉症の男性四人、「もえぎ」は知的・自閉の重度の男性五人女性五人、「ききよう」は多動の男性三人女性二人が入居されています。そして「わかくさ」は肢体不自由の方で、男性四人女性四人が生活されています。「わかくさ」は二階を事務所として利用し、一階部分のみを居室として男女に分かれて配置されていました。トイレは車椅子用が男女それぞれに一箇所ずつ。お風呂は脱衣室も広く、普通の浴室とストレッチャーのまま入れる機械浴室も設置されていました。リビングやドアなども広く、車椅子で快適に生活出来るよう設計されていました。また、各

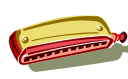
ケアホームでは世話人、生活支援員と個別のヘルパーも利用しながら生活し、日中はあらぐさの事業所に通われています。吸痰などの医療ケアの必要な人もいて、あらぐさ本体で雇用された看護師が朝夕ホームに来てバイタルチェックをしているそうです。

現在ケアホームは月曜から金曜日までの利用で、土日はあらぐさの送迎車で自宅に帰り、家族と過ごす時間も大切にされています。

あらぐさは二十六年前に「学校卒業後も住み慣れた地域で暮らさせたい」と、たった四人の作業所から始まったそうです。各事業展開、施設建設、法人格の取得等多くの支援者や親たちの長年の活動を経て「どんなに障害が重くても、学び育った地域で、豊かに安心して暮らし続けたい」との願いにこたえケアホームが開設されました。昼をあらぐさで過ごし、夜はケアホームでくつろぎ、翌朝また元気に出かけるといううらやましい理想的な暮らしがここにあると思えました。でも、ここが「終のすみか」とは言及できない、年を重ね

通えなくなる日が来た時、ここで一日過ごせるのか、違うケアがいるのか、それらを見極めながら考えていきたいと言われました。施設入所以外では支援を受けながら暮らすケアホームも理想の形だと思っていました。ケアホームや共同壁な形ではないとの言葉に考えさせられました。ケアホームや共同住居など思い描く生活の形は人それぞれですが大変参考になった施設見学でした。

社会見学事業  
クリスマス会  
クリスマス会  
「クロマチックハーモニカの調べ」  
& ハンドアーチェリー



大和郡山市 宿利 三知恵

十二月十五日、奈良ロイヤルホテルで県の父母の会主催の「音楽と食事を楽しむ会」に、娘の真希といっしょに参加しました。いつもと違うホテルでのごちそうに、娘は「今日はホテルだからおしゃべりして行きたい。」と言いきり、ダンスの奥からあれこれと二人で洋服を選び出かけました。

まず松本会長のご挨拶から、ノベル賞受賞された山中教授と

もにストックホルムへご主人と同行され、授賞式や晩さん会にご出席された様子を聞き、写真も見せていただきました。ノベル賞のメダルチョコレートをいただき、思いがけないプレゼントにびっくり！嬉しくて、ちよつと自慢しい気分です。

そのあと、ハーモニカのソロ演奏を聴きました。奏者は竹内海人さんという十五歳の青年、生駒市在住の高校一年生の方です。今年ハーモニカのコンテストでなんと優勝されたそうです。なかなかのイケメンで、きつと将来もつと活躍されることでしょう。ハーモニカといっても想像していたものとは違い、クロマチックハーモニカといい、四オクターブの音域があり半音も出せ、こんなに小さいのに、グラランドピアノ一台が手の中につっぽり収まった魅力ある楽器です。葉加瀬太郎の「情熱大陸」、いきものがかりの「ありがと」やクリスマスソングなど、また優勝曲「エルクンバンチェロ」も披露され、ラテンの明るいうりずみからスローテンポまで幅広く哀愁もあり、いろんなジャンルの曲を聴き楽しませていただきました。

メインのお食事の方は、和食、洋食、中華料理やイタリアンと、バラエティ豊かでおなががいっぱ

い、でも最後のお楽しみでのデザートは、娘に取られてしまいました。刻み食やペーストなどどんな重度な障害があっても食べられるよう工夫していただき、ホテル側の皆さまもとても感じよく接していただき、ゆつたりとおいしくいただきました。

お食事の途中から、本部役員さんが赤い帽子をかぶってクリスマスのお囃子を演出していただき、ハンドアーチェリーの競技を進めてくださいました。ピンを手で投げる、手作りのシューティング補助具を使う、ボードを床面に置いて落とす方法など、それぞれの障害に合わせて、工夫して全員楽しむことができました。得点の高い順に名前が発表され、素敵なプレゼントをいただきました。会場の全員にプレゼントが配られました。いくつになってもプレゼントは嬉しいものですね。

寒さ厳しい時期の開催ではありませんでしたが、誰も欠席者なく全員参加出来たこと、日ごろ会えない地域の皆さんに会えたことに感謝し、笑顔いっぱい過ごせたクリスマス会でした。開催にあたり準備してくださいました県の父母の役員さんには、大変お世話になりました。またこのような機会がありましたら、市内の学齢の親

子さんもお誘いして参加したいと思います。有難うございました。

天理市 大原 良子

十二月十五日奈良ロイヤルホテルで開かれたクリスマス会に初めて参加させていただきました。

会長の挨拶の中でストックホルムでの山中教授のノーベル賞の授賞式に出席された貴重なお話を聞かせていただきました。テレビのニュース映像を見て、日本中が拍手をしたと思います。

さてゲストのクロマチックハーモニカの奏者竹内海人さんの演奏です。元気の出る曲やクリスマスソング等数曲、私も演奏を聴きながらずっと昔見たビングクロスビーのホワイトクリスマスを思い出しました。「クロマチックハーモニカ」の名前も楽器も知らなかったのが初めて手に取って見せてもらいました。ずっと見せてもらって楽しませてくれた奏者は十五才の少年でした。

最後のゲーム「ハンドアーチェリー」自分で投げられる人は自分で、補助具を使う人、落とすだけの人とそれぞれ真剣です。高得点が出ると大きな声が(主に保護者)聞こえてきます。とにかく一日楽

しませていただきました。ゆつくり食事をしたり、演奏を聴いたりできたのは介護員さんにと子ども面倒を見ていただいたおかげです。ありがとうございます。会を企画された本部役員のお母様方お世話様でした。

車椅子 あつまり笑顔のクリスマス



奈良県肢連では二つの訓練会の支援をしています

仔鹿会



平成二十四年度 奈良療育キャンプについて

斑鳩町 池田 真一

まず初めに、キャンプに参加して何よりも印象に残ったことは、参加して下さっているトレーナーの先生方が訓練以外でも(余暇の時間、朝の時間、食事の時間)と色々と思いを巡らされて、子供達が退屈しないように楽しませてくれたことでした。そして、それにもまして大変だなあと思う反面、

とてもありがたかったのは、大きくなられたお子様と一緒に風呂へと、入れて下さることでした。訓練や研修で疲れた体に無理を押して、入れて下さる姿を見て、私は申し訳がない気持ちと同時に、大変だと思いついて下さる心遣いが嬉しくて、胸が詰まりそうになりました。その他、忘れてはならないのは約一週間お子様達のお世話と、先生方の夜食の準備等お時間を割かれた保護者の方の御苦労、御心労を思うと私は何もしてないので気が引ける思いでした。次に奈良療育キャンプに参加して驚愕し何よりも良かったことは、トレーナーの先生方に体を緩められて体が楽になり今まで出来なかったことが出来るようになったことでした。本当、一刻と時間が経つにつれ、始まる前の体と違って今日の自分との体が明らかに違ってきて一人で座れるようになっただけで立てるようになったのが一番嬉しかったことでした。興味のある方は、ぜひお試しください。でも、心リハというものは自分で動かして学んでいくものなので多少しんどいかもありません。けれども、頑張れば頑張るほど魔法み

たいに成果が出ることは大いに期待できます。

続きまして残念だったことを、あえて申しますと目標にしていた自分で胡坐で座るということが出来なかったことでした。

そして最後に今後の課題は、私は朝長さん、仔鹿会の保護者の方(先生方)のご厚意でキャンプに参加をしましたが、もっと両親が高齢で参加出来ない方も勇気を出して一人で参加されればなあと思いましたが。そしてこれは、私の個人的な希望なのですが来年もし、仔鹿会の保護者の方と先生方が許して下さいのならば、又一人で参加したいと思いました。

それでは最後になりましたが、キャンプでご迷惑をお掛けした方々、お世話になった方々にこの場をお借りしましてお礼を申し上げます。本当に感謝しております。

陽だまり笑顔の会



静的弛緩誘導法に参加して


生駒市 世良 桂子

毎月第一土曜日に静的弛緩誘導法(陽だまり笑顔の会)が奈良市

福祉センターで九時半〜十二時半にあり、親子で参加させていただいています。

講師の先生方や奈良養護学校や明日香養護学校等の先生方がつきつきりで指導して下さいます。横になつて、お腹や胸、両手、肩甲骨、背骨、腰、お尻、両足と、触れている部位を本人に分かるように言いながら両手を当てて触り、緊張を緩めていきます。浅かった呼吸が深くなつたり、しつかり座れるようになつたり、歩けなくても、足の裏を触つたり、タツピングすると立ったり歩いたりしている感覚になります。

息子は左半身麻痺で、だんだん右への側弯がきつくなつていきますが、左側を意識するように「左」と声をかけ手を左側にかざしてあげると、右に傾いていた頭を自分で真つすぐに起こします。又、仰向けに寝て、両手、両足を持ち上げ震わすと、体中の緊張がほぐれます。息子は一日、車椅子に乗っているか横になつているかで自分からは動けないのですが、こうして緊張を緩めてもらうと、とても気持ちがいいようです。親もしていただいて体験し、良さがよく分かります。学んだことを家で息子にしてあげるようにこれからも心がけていきたいと思ひます。

大和高田市の木村友彦さんが「第31回肢体不自由児・者の美術展」で佳作賞を受賞されました。おめでとうございます 

奈良県知事表彰受賞

おめでとうございませす  
自立更生者 上牧町 桑原 恒子様  
更生援護功労者 大和郡山市 筒井 英子様



祝成人



望さん 河野 望さん  
大祐さん 田口 大祐さん  
展江さん 中村 展江さん  
美佳子さん 相良 朝長 美佳子さん  
耀一さん 岡崎 耀一さん

今後の行事予定

- ☆第44回奈良県肢連総会  
日にち:平成25年6月6日(木)  
場 所:県社会福祉総合センター 5階研修室B・C
- ☆第12回チャリティー墨書展  
日にち:平成25年 6月29・30日(土・日)  
場 所:奈良県文化会館B展示室
- ☆第48回近畿肢体不自由児者福祉大会  
日にち:平成25年9月7日(土)  
場 所:奈良県文化会館小ホール

編集後記



新しい年を迎え、いかがお過ごしでしょうか。昨年は山中さんのノーベル賞に日本中が湧きました。難病の克服や新たな治療薬の発見につながるのとことです。いずれは私たちが子どものような障害が治せる日が来るのも夢ではないかもしれません。今回も皆様よりお忙しい中、貴重なご意見やご感想をお寄せいただきありがとうございます。行政のお力添えやたくさんの方々を支えられて充実した会活動ができることに心から感謝いたします。今年も元気で明るい年にしたいと思います。